

# 第32回 宝塚混声合唱団音楽会



## バッハ 「クリスマス・オラトリオ」

Johann Sebastian Bach “Christmas Oratorio”

2022年8月20日[土]

開場 13:15 開演 14:00

東リいたみホール  
(伊丹市立文化会館)

後援: 宝塚市・宝塚市文化財団・宝塚合唱連盟・兵庫県合唱連盟

## ごあいさつ

本日は、私たち宝塚混声合唱団の第32回音楽会にお越しいただきありがとうございます。

前回の音楽会から3年ぶりの開催となりました。コロナ禍のなか練習や活動の休止を余儀なくされた期間もありましたが、本日の音楽会を迎えることができたのは、熱心にご指導いただいた畑先生をはじめピアニストの先生方、ならびにご支援いただいた皆様方のお陰と心から感謝申し上げます。そして、これまであたたかく見守ってくれた家族に改めて感謝しています。

今回は、バッハの「クリスマス・オラトリオ」を演奏いたします。ヘンデルの「メサイア」と並ぶクリスマス音楽の代表作といわれています。難曲ですがオーケストラやソリストの先生方のご協力をいただき、練習の成果をお届けすることで、合唱できるよろこびを皆様と共有できるよう祈っています。

どうぞ最後まで、ごゆっくりご鑑賞いただくとともに、今後とも宝塚混声合唱団の活動にご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

近年、私たちの音楽会に数多くゲスト出演いただいている福嶋あかね氏(メゾプラノ)に、今回は合唱指導で大変お世話になりました。記して感謝申し上げます。

2022年8月 宝塚混声合唱団



第31回 宝塚混声合唱団音楽会 ヘンデル オラトリオ「メサイア」 2019年7月27日～東りいたみホール～

## Program

# バッハ 「クリスマス・オラトリオ」

指揮者 畑 儀文 によるプレトーク

- |                |                    |               |
|----------------|--------------------|---------------|
| 第1部            | 降誕節第1 祝日用 (12月25日) | イエスの誕生        |
| 第2部            | 降誕節第2 祝日用 (12月26日) | 羊飼いたちへの天使のお告げ |
| 第3部            | 降誕節第3 祝日用 (12月27日) | 羊飼いたちの幼子イエス訪問 |
| ————— 休憩 ————— |                    |               |
| 第4部            | 新年用 (1月1日)         | 幼子イエスの命名      |
| 第5部            | 新年後の第1日曜日用         | 東方三博士とヘロデ王    |
| 第6部            | 顕現節用 (1月6日)        | 三博士のイエスとの巡り会い |

指揮	畑 儀文
ソプラノ	古瀬 まきを
メゾソプラノ	八木 寿子
テノール	松原 友
バス	篠部 信宏
ソプラノ(エコー)	田中 めぐみ
オーケストラ	アンサンブル・ムジカ・アニマ
字幕	藤野 明子
字幕システム	合同会社ミチヤシステムズ

藤野明子さまは、2020年11月に逝去されました。前日まで字幕の仕事に取り組んでおられたと、実弟のミチヤシステムズ道家様よりお聞きしています。2019年夏、第31回メサイア音楽会の直後をお願いしていた本日の字幕は、藤野さまの遺作となりました。20年にわたる私たちへのご協力に心よりお礼申し上げます。

宝塚混声合唱団 一同

## 第1部 降誕節第1祝日用（12月25日）



- 第1曲 合唱
- 第2曲 レチタティーヴォ（福音史家）
- 第3曲 レチタティーヴォ（アルト）
- 第4曲 アリア（アルト）
- 第5曲 コラール
- 第6曲 レチタティーヴォ（福音史家）
- 第7曲 コラール（ソプラノ）とレチタティーヴォ（バス）
- 第8曲 アリア（バス）
- 第9曲 コラール

## 第2部 降誕節第2祝日用（12月26日）



- 第10曲 シンフォニア
- 第11曲 レチタティーヴォ（福音史家）
- 第12曲 コラール
- 第13曲 レチタティーヴォ（福音史家と天使）
- 第14曲 レチタティーヴォ（バス）
- 第15曲 アリア（テノール）
- 第16曲 レチタティーヴォ（福音史家）
- 第17曲 コラール
- 第18曲 レチタティーヴォ（バス）
- 第19曲 アリア（アルト）
- 第20曲 レチタティーヴォ（福音史家）
- 第21曲 合唱
- 第22曲 レチタティーヴォ（バス）
- 第23曲 コラール

## 第3部 降誕節第3祝日用（12月27日）



- 第24曲 合唱
- 第25曲 レチタティーヴォ（福音史家）
- 第26曲 合唱
- 第27曲 レチタティーヴォ（バス）
- 第28曲 コラール
- 第29曲 アリア（二重唱 ソプラノ、バス）
- 第30曲 レチタティーヴォ（福音史家）
- 第31曲 アリア（アルト）
- 第32曲 レチタティーヴォ（アルト）
- 第33曲 コラール
- 第34曲 レチタティーヴォ（福音史家）
- 第35曲 コラール
- 第24曲 合唱<3部冒頭合唱の反復>

## イエスの誕生

「歓呼の声を放て、喜び踊れ」  
 「その頃皇帝アウグストより勅令出で」  
 「今ぞ、こよなく尊きわが花嫁」  
 「備えせよ、シオンよ、心からなる愛もて」  
 「如何にしてわれは汝を迎えまつり」  
 「しかしてマリアは男の初子を生子」  
 「彼は貧しきさまにて地に来りましぬ / たれかよくこの愛を正しく讃えん」  
 「大いなる主、おお、強き王」  
 「ああ、わが心より尊びまつる嬰兒イエスよ」

## 羊飼いたちへの天使のお告げ

「このあたりに羊飼いがおりて」  
 「差し出でよ、おお 美わしき朝の光よ」  
 「御使彼らに言う / 恐れるな」  
 「神いにしえの日アブラハムに約し給いしことの」  
 「喜べる羊飼いらよ、急げ、とく急ぎて行けや」  
 「かつその徴として」  
 「かしこを見よ！ かの暗き畜舎に伏す者」  
 「さらば行けかし」  
 「眠りたまえ、わが尊びまつる者、安けき憩いを楽しみ」  
 「するとたちまち御使のもとに」  
 「いと高き所には神に栄光あれ」  
 「その調べもて、汝ら御使よ、歓呼して歌えかし」  
 「われらは汝の軍勢に交りて歌いまつらん」

## 羊飼いたちの幼子イエス訪問

「天を統べたもう者よ、舌足らずの祈りを聞き入れ」  
 「御使たち去りて天に行きしとき」  
 「いざ、ベツレヘムに行きて」  
 「主はその民を慰めたまえり」  
 「主この全てをわれらになし給いしは」  
 「主よ、汝の思いやり、汝の憐れみは」  
 「かくて彼ら急いで」  
 「わが心よ、この幸なる奇蹟をば」  
 「然り、わが心には必ずや内に保たん」  
 「われは御身をひたすらに保ち」  
 「しかして羊飼いらは再び蹠を回して帰り」  
 「喜び楽しめ」  
 「天を統べたもう者よ、舌足らずの祈りを聞き入れ」

## 第4部 新年用（1月1日）



- 第36曲 合唱
- 第37曲 レチタティーヴォ（福音史家）
- 第38曲 レチタティーヴォ（バス）とアリオソ（ソプラノとバス）
- 第39曲 アリア（ソプラノとエコー）
- 第40曲 レチタティーヴォ（バス）とアリオソ（ソプラノとバス）
- 第41曲 アリア（テノール）
- 第42曲 コラール

## 第5部 新年後の第1日曜日用



- 第43曲 合唱
- 第44曲 レチタティーヴォ（福音史家）
- 第45曲 合唱とレチタティーヴォ（アルト）
- 第46曲 コラール
- 第47曲 アリア（バス）
- 第48曲 レチタティーヴォ（福音史家）
- 第49曲 レチタティーヴォ（アルト）
- 第50曲 レチタティーヴォ（福音史家）
- 第51曲 アリア（三重唱 ソプラノ、アルト、テノール）
- 第52曲 レチタティーヴォ（アルト）
- 第53曲 コラール

## 第6部 顕現節用（1月6日）



- 第54曲 合唱
- 第55曲 レチタティーヴォ（福音史家とヘロデ）
- 第56曲 レチタティーヴォ（ソプラノ）
- 第57曲 アリア（ソプラノ）
- 第58曲 レチタティーヴォ（福音史家）
- 第59曲 コラール
- 第60曲 レチタティーヴォ（福音史家）
- 第61曲 レチタティーヴォ（テノール）
- 第62曲 アリア（テノール）
- 第63曲 レチタティーヴォ（ソプラノ、アルト、テノール、バス）
- 第64曲 コラール

## 幼子イエスの命名

- 「ひれ伏せ、感謝もて、ひれ伏せ、讃美もて」
- 「八日みちて」
- 「インマヌエル、おお、甘き言葉よ！ / イエス、こよなく尊きわが生命よ」
- 「答えたまえ、わが救い主よ、汝の御名はそも」
- 「ならばいざ！汝の御名のみ / イエス、わが喜びの極み」
- 「われはただ汝の栄光のために生きん」
- 「イエスわが始まりを正し」

## 東方三博士とヘロデ王

- 「栄光あれと、神よ、汝に歌わん」
- 「イエス、ユダヤのベツレヘムにて」
- 「この度生まれ給えるユダヤ人の王はいずここにいますか？ / その君をわが胸の内に求めよ」
- 「汝の光輝は全ての闇を呑み」
- 「わが暗き五感をも照らし」
- 「ヘロデ王これを聞きて」
- 「いかなれば汝らはうろたえおののかか？」
- 「王、民の祭司長らをみな集めて」
- 「ああ、その時はいつ現るるや？」
- 「いと尊きわが君はすでに統べ治めたもう」
- 「かかる心の部屋は」

## 三博士のイエスとの巡り会い

- 「主よ、勝ち誇れる敵どもの息まくとき」
- 「ここにヘロデひそかに博士らを招きて / いざ行きて幼な児のことをくまなく尋ね」
- 「汝偽り者よ、思うがままに主を倒さんとうかがい」
- 「その御手のひとふりは」
- 「彼ら王の言葉を聞きて」
- 「われはここ馬槽（まぶね）のかたえ汝がみ側に立つ」
- 「ここに神、夢にて」
- 「さらば行けよ！ 足れり、わが宝ここより去らずば」
- 「さらば汝ら、勝ち誇れる敵ども、脅せかし」
- 「地獄の恐れ、今は何するものぞ？」
- 「今や汝らの神の報復はいみじくも遂げられたり」



## バッハ「クリスマス・オラトリオ」解説



### バッハの生涯

ヨハン・セバスティアン・バッハ（以下バッハと記す）は18世紀前半にドイツで活躍し、バロック音楽を完成させるとともにヨーロッパ近代音楽の扉を開いた巨匠です。当時のドイツは30年戦争や疫病の流行による荒廃から立ち直り、啓蒙思想の高揚するなかで領邦国家による市民社会が形成途上がありました。バッハは1685年にルターのプロテスタント精神が息づく中部ドイツの町アイゼナハで歴代続く音楽家の末子として生まれました。9歳から10歳のとき両親が立て続けに亡くなり、長兄に引きとられてラテン語学校で学び、リュネブルクやアルンシュタットで聖歌隊に入り、オルガンの修行を積んで、20歳のときブクステフーデの演奏を聴くためリュベックへ長途の徒歩旅行に出かけるなど遍歴を重ね、1707年（22歳）にはミュールハウゼンの教会オルガニストに採用され、マリア・バルバラと結婚します。翌年にワイマールに赴いたバッハは宮廷オルガニストに就任し、楽師長に昇任して、オルガン曲、ヴァイオリン曲やカンタータを次々に作曲、演奏します。9年間のワイマール生活のあと17年にレオポルト侯に招聘されてケーテンの宮廷楽長を勤め、「管弦楽組曲」「ブランデンブルク協奏曲」をはじめ器楽を中心にした数多の名曲を生み出しました。20年

に妻バルバラの急死という不幸に見舞われますが、1年半後に宮廷歌手のアンナ・マグダレーナと再婚します。ちなみにバッハは先妻との間に7人、後妻との間に13人の子供を設けますが次々に夭折し、フリーデマン、エマヌエル、クリストフ、クリスチャンの4人の男子が音楽家として名を残し、なかでも末子のクリスチャンは父と同生まれの巨匠ヘンデルの後継者としてロンドンで活躍し、モーツァルトとも親交を持ちました。

大家族の長として子供たちの教育のことも考え、23年（38歳）にバッハはザクセン最大の都市ライプチヒに移住して、テレマンが辞退した聖トーマス教会のカントールに就任し、市と大学の音楽監督を兼任します。以後バッハはこの地を離れることなく、宗教音楽の作曲、演奏、指揮を中心に旺盛な活動を持続し、膨大な量の教会カンタータをはじめ、「ヨハネ受難曲」「マタイ受難曲」「クリスマス・オラトリオ」「農民カンタータ」など声楽の大作を仕上げました。36年には完成途上の「ミサ曲短調」を新任のザクセン選帝侯アウグスト3世に献呈して宮廷作曲家の地位を獲得し、47年には次男エマヌエルを介してプロシヤ国王フリードリヒ2世への謁見が叶い「音楽の捧げもの」を即興演奏して献上しました。この頃からバッハは眼疾が悪化して視力を失い、「フーガの

技法」の完成目前に脳卒中のため1750年に65歳で死去し、聖ヨハネ教会に埋葬されました。勤勉で職人気質だったバッハが練習、教育用に書き貯めた「クラヴィア練習曲集」「平均律クラヴィア曲集」などを含め1千曲を超える膨大な作品は、没後久しく忘却の淵に沈んでいましたが、深い精神性と高い表現性を湛えた比類ない価値がシューマン、メンデルスゾーンなど後進の青年音楽家によって再発掘されて今日に至る揺るぎない評価が確立しました。

### 「クリスマス・オラトリオ」の成りたち

<カンタータ>（=交声曲）はCantare（歌う）が語源で、Sonare（鳴らす）に由来するソナタ（=器楽曲）に対する声楽曲一般という意味を持ち、ドイツではルター以来プロテスタント教会で歌われるコラール（Choral：讃美歌）を基盤にして発展してきました。バッハはコラールの旋律に聖句を組み入れ、合唱、アリア、レチタティーヴォ、器楽からなるカンタータを200曲以上作曲しております。<オラトリオ>（=聖譚曲）はOratorium（祈祷所）が語源で、カンタータに物語性が加わり器楽を伴う大規模な声楽曲を指すことが多く、本日演奏される

「クリスマス・オラトリオ」はイエスキリストの誕生をテーマに、誕生日から顕現日までの6回の祝祭日のために作られた6部の<カンタータ>を1つのまとまった<オラトリオ>と命名しました。台本は新約聖書（ルター訳ドイツ語）の「ルカ伝」と「マタイ伝」から採られ、自由詩とコラールを加えて作成されており、自由詩部分は詩人ピカンダーによるものと推測されます。各部は第2部を除き合唱を導入部とし、聖書地文は福音史家（テノール）、自由詩は4人のソリスト、羊飼いや天使は合唱が受け持ち、コラールが全体の想念を受けとめるという分担は受難曲とほぼ同じですが、受難曲が<受難記事>を基礎とし苦悩と悲壮感を湛えているのに対しこの曲は<降誕記事>に基づいており、キリストの生誕を祝う希望の光に包まれ、明るい悦びに溢れています。

6部構成のカンタータは1734年秋に作曲され、その年の12月25日から新年1月6日までの礼拝日に聖ニコライ教会と聖トーマス教会を往復しながらバッハ自らの指揮で初演されました。全64曲の作曲にあたり、バッハは新しく書き下ろした曲のほかにも多数の旧作（カンタータやコラール）を書き換えて転用（=パロディ）していますが、新作と旧作は分ちがたく溶け合っただけで一体的な価値を生み出しています。

## 「クリスマス・オラトリオ」の概要

### 第1部 降誕節第1祝日用(12月25日)

#### 第1曲～第9曲

12月25日のクリスマス初日。トランペットとティンパニーを伴う華やかな器楽の序奏に続く合唱“歓呼の声を放て～”(第1曲:以下曲番号を数字で示す)で幕が開き、福音史家(テノール)が通奏低音を伴い「ルカ伝」第2章に基づく御子生誕のいきさつを語ります(2)。アルトソロがメシア到来を告げると(4)、メシア歓迎のコラール(“血潮したたる”の旋律)がこれに応え(5)、バスアリアが御子の降誕を力強く祝い(8)、合唱がルターのコラール(“高き天より”の旋律)(9)を歌って締めくくられます。

### 第2部 降誕節第2祝日用(12月26日)

#### 第10曲～第23曲

野宿する羊飼いたちへの天使からのお告げがテーマとなっています。冒頭曲が6部のなかで唯一の器楽曲“シンフォニア”(10)を牧歌的な雰囲気の中で、コラール(12)、フルートを伴うテノールアリア(15)、コラール(17)と続き、アルトが慈愛に満ちた有名なアリア“眠りたまえ～”(19)を歌い、天使たちの大合唱(21)のあとバスの呼びかけ(22)に応じてコラールが再び“高き天より”の旋律(23)を器楽に合わせてリズムカルに歌って締められます。

### 第3部 降誕節第3祝日用(12月27日)

#### 第24曲～第35曲

キリスト誕生の物語の最後にあたり、羊飼いたちがベツレヘムを訪問して飼葉桶に寝かされた御子を見届けるまでが語られます。第1部の冒頭とも呼応する華麗な冒頭合唱“天を統べたもう者よ”(24)に続き、羊飼いたちの合唱“いざ、ベツレヘムに～”(26)、主への感謝を歌うソプラノ、バスの二重唱(29)、アルトソロ(31)、そして主の降誕を祝うコラール(35)へと受け継がれ、3日続いた降誕祭を締めくくるべく冒頭合唱(24)が反復されて第3部が終わります。

### 第4部 新年用(1月1日)

#### 第36曲～第42曲

第3部でオラトリオの前半が終わり、第4部から後半に入ります。御子は生誕8日後に割礼を受け、イエスと名付けられます。この日は1月1日にあたり、新年礼拝用に書かれています。冒頭合唱(36)“ひれ伏せ、感謝もて～”がホルンの加わった器楽と協奏で展開され、御子イエスの御名(インマヌエル)を祝うバス・ソプラノ二重唱(38)、エコーとオーボエが笛のように呼応するソプラノアリア(39)、そしてヴァイオリンの伴奏を伴うテノールアリア(41)と印象的な歌唱が続き、器楽との協奏による祈りのコラール(42)で閉じられます。

### 第5部 新年後の第1日曜日用

#### 第43曲～第53曲

新年最初の日曜日のための作品で、ここからは「マタイ伝」第2章に基づく東方三博士の物語に移ります。金管楽器は休止し、フーガを伴う軽快・華麗な冒頭合唱“栄光

あれと、神よ～”(43)に続き、真の王の誕生に対するユダヤの王ヘロデの不安が語られ(44)、東方から星の光に導かれて幼子を訪ねてきた博士たちの問答を合唱とアルトソロが歌い(45)、光を讃えるコラール(46)を挟んで光の正体を見極めるバスアリア(47)、主の統治を待ち望むソプラノ、アルト、テノールの三重唱(51)へと繋がれ、その確信が簡潔なコラール(53)で締めくくられます。

### 第6部 顕現節用(1月6日)

#### 第54曲～第64曲

1月6日、顕現日の音楽です。全楽器が揃い、敵ヘロデ王と戦う決意を歌う力強い冒頭合唱“主よ～”(54)に続き、ヘロデの陰謀をテノールとバスが語り(55)、それを嘆き咎めるソプラノソロとアリア(56、57)、博士たちがマリアと共に居る御子を探し出し、贈り物を捧げたことを知って嬰兒イエスを讃えるコラール(59)。そして無事帰国に向かった博士たちの去就を確かめ、救い主イエスを敵から守る決意を新たにするテノールアリア(62)、ソリスト4人の四重唱“地獄の恐れ～”(63)を受け継いで、キリストの勝利を宣言する最終合唱(64)が全楽器の華麗な前奏と伴奏と共にコラール旋律“血潮したたる”に乗せて、“死も悪魔も罪と地獄も力をそぎ落とされた 神の許に人は座を勝ち取る。”(藤野明子訳詞)と力強く歌い上げてオラトリオ全曲が閉じられます。

遷延するコロナ禍に遮られて2度の上演延期を余儀なくされましたバッハの大作を、人類の活動が地球を覆いつくし身動きが取れなくなってしまった現実世界(=「人新世」)を持続可能に立て直すための“時・空を超え<慈愛と栄光>に溢れたメッセージ”と受けとめ、畑 儀文先生の指揮のもと、ソリスト、オーケストラと力を合わせ心を込めて歌わせていただきます。

(参考文献)

「バッハ 生涯と芸術」 J.N.フォルケル 柴田治三郎 訳 岩波書店

「バッハ」(全3巻) A.シュバイツァー 浅井、内垣、杉山 共訳 白水社

「バッハ 生涯と作品」 W.フェリークス 杉山好 訳 講談社

「バッハ 魂のエヴァンゲリスト」 磯山雅 著 講談社

(テナー 福田 伸)

# Profile

指揮

畑 儀文 はた よしふみ



兵庫県丹波篠山市生まれ。大阪音楽大学大学院修了。1979年大阪にて、小林道夫氏の伴奏による初リサイタルを行う。以後テノールソリストとして、ドレスデン国立歌劇場管弦楽団ホルン奏者ペーター・ダム氏との共演、イェルク・デームス氏の伴奏による数多くのリサイタル等で大きな成果をおさめた。1991年オランダ・アムステルダムにおいて、バロック歌手として高名なマックス・ファン・エグモント氏のもとで研鑽を積む。以後オランダ各地において、受難週には、エヴァンゲリストとして招かれ、近年はドイツ・ライプツィヒにおいてバッハ作品のソロを務める。また1993年～1999年にかけて、シューベルト歌曲全曲演奏を成し遂げ、国内外で話題を集めた。2017年3月大阪バッハ合唱団オランダ、ドイツツアーでは「マタイ受難曲」の指揮者、エヴァンゲリストとして演奏会を成功に導いた。今年5月にはシューベルト弾き歌いシリーズ第5弾として歌曲集「美しき水車屋の娘」に挑み好評を得た。日本コロムビアからCD「日本のうた」「新しい日本のうた」「トスティ歌曲集」「昭和のうた」「美しき水車屋の娘」、エール株式会社から「こどものころ」「日本のころ」をリリースし、その天性の歌声はジャンルを問わず心に響く感動を呼び、注目を集めている。「大阪文化祭本賞」「咲くやこの花賞」「大阪府民劇場賞」「坂井時忠音楽賞」「兵庫県芸術奨励賞」「兵庫県文化賞」等多数の賞を受賞。丹波の森国際音楽祭シューベルトティアードたんば音楽監督。京都女子大学非常勤講師。

ソプラノ

古瀬 まきを ふるせ まきを



相愛大学卒業、京都市立芸術大学大学院修了。平成25年度文化庁新進芸術家海外研修制度研修員。第15回松方ホール音楽賞、第24回奏楽堂日本歌曲コンクール歌唱部門第1位及び中田喜直賞、第22回ABC新人コンサート最優秀音楽賞他多数受賞。「エツィオ」(日本初演)フルヴィア、「フィガロの結婚」スザンナ、「魔笛」パミーナ、「ランメルモールのルチア」ルチア、「ロメオとジュリエット」ジュリエット、「ホフマン物語」オランピア、「ナクソス島のアリアドネ」ツェルピネッタ、「千姫」おちよ役など各地で多数のオペラに出演。様々なコンサートの他、宗教曲・管弦楽曲のソリストとしても出演を重ねる。平成28年度尼崎市芸術奨励賞。プーランク「人間の声」を中心とするリサイタルの成果により第40回音楽クリティック・クラブ賞奨励賞、令和元年度大阪文化祭奨励賞を受賞。'19年兵庫県立芸術文化センターワンコインコンサートNo.1アーティスト。同志社女子大学嘱託講師、相愛大学、大阪音楽大学非常勤講師。'21年初アルバム「詩(うた)が咲くとき」をリリース。

オーケストラ

アンサンブル・ムジカ・アニマ

2006年上塚憲一を中心に発足したオーケストラで、主に関西で活躍する経験と実力豊かな演奏家を中心に構成される。個々の演奏家のレベルの高さから、時代考証に基づいた正統派の演奏を目指す完成度の高いオーケストラで、バロックから近代の合唱作品での演奏は共演した各方面より高い評価を得ている。宝塚混声合唱団とは、2007年の第19回音楽会以来、共演を努めさせていただいている。

メゾ・ソプラノ

八木 寿子 やぎ ひさこ



福岡県出身。福岡教育大学卒業。京都市立芸術大学大学院修士課程を首席にて修了。第25回飯塚新人音楽コンクール第2位。第17回友愛ドイツ歌曲コンクール第1位。第9回東京音楽コンクール第1位。第81回日本音楽コンクール入選。近年オペラでは、ひろしまオペラハウス「イドメネオ」イダマンテ、びわ湖ホール「ジークフリート」エルダ、同「ローエングリン」オルトルト、日生劇場「ヘンゼルとグレーテル」ゲルトルトなど多数出演。また宗教曲等では、ヘンデル「メサイア」、ミヒャエル・ハイデン「レクイエム」、モーツァルト「レクイエム」、ベートーヴェン「第九」、ヴェルディ「レクイエム」、マーラー「交響曲第2番《復活》」、ドヴォルジャーク「スターバト・マテル」など多くの作品でソリストを務め、いずれも音楽誌などで高い評価を得ている。2019年11月NHK-FM「リサイタル・パッション」に出演した際には「一年間に登場した46組のうち特に印象的だった10組」に選ばれ、年度末に再度演奏が取り上げられた。現在、京都女子大学非常勤講師。

チェロ

上塚 憲一 かみづか けんいち

京都市立芸術大学卒業。チェロを黒沼俊夫、A.ビルスマ、室内楽をG.ボッセ、S.スタンディジの各氏に師事。大阪文化祭奨励賞、灘ライオンズクラブ賞、坂井時忠音楽賞を受賞。大阪音楽大学教授、同大学付属音楽院講師、西宮高等学校音楽科非常勤講師。チェロ・アンサンブル・エクラ、Baroque Ensemble VOC、アンサンブル・ムジカ・アニマを主宰。ソロ活動のほか、室内楽では播磨室内合奏団(2015年結成)に参加し、自身でも旧テレマン・アンサンブルメンバーの再活動の場として

テノール

松原 友 まつばら とも



photo:Yoshinobu Fukaya

東京藝術大学卒業。同大学院修了。ロームミュージックファンデーション、野村財団奨学生としてミュンヘン音楽大学大学院、ウィーン国立音楽大学リート・オラトリオ科卒業。第14回松方ホール音楽賞、第81回、83回日本音楽コンクール第3位・岩谷賞(聴衆賞)、第71回文化庁芸術祭新人賞受賞。これまでヨーロッパ、日本各地でのリサイタル、オペラ、オラトリオの公演をはじめ、NHKリサイタルノヴァ、ルールトリエンナーレ、トビリシ音楽祭、小澤征爾音楽塾、サイトウキネンフェスティバル、PMF音楽祭等に出演。小澤征爾、ウルフ・シルマー、準・メルクル、インゴ・メッツマッハー、ハルトムート・ヘンヒェン、山田和樹他、国際的な指揮者と共演を重ねる。東京藝術大学、京都市立芸術大学、武蔵野音楽大学、同志社女子大学、相愛大学、大阪音楽大学、大阪教育大学、夕陽丘高校、相愛高校、各非常勤講師。東京二期会会員。

バス・バリトン

篠部 信宏 しのべ のぶひろ



大阪芸術大学大学院修了。卒業時に学長賞受賞。第1回大阪国際音楽コンクール声楽部門第3位受賞。2009年丹波の森国際音楽祭のシンボルアーティスト。2005年より毎年渡欧Max van Egmond氏に師事。2017年3月オランダにてバッハ「マタイ受難曲」のイエスを、ドイツにて同曲のバスアリアを歌いバーディシエ新聞紙上で絶賛される。2019年11月ドイツ、アイゼナハバッハ音楽祭にて「ロ短調ミサ」のソロを務めた。宗教曲のソリストとして日本テレマン協会定期、大阪フィルハーモニー交響楽団いずみホール特別公演、関西フィルハーモニー管弦楽団定期等に出演。バッハ「マタイ受難曲」「ヨハネ受難曲」「ロ短調ミサ」「クリスマスオラトリオ」全てのバスソロカンタータを含む「教会カンタータ」、ヘンデル「メサイア」、モーツァルト、フォーレ、ブラームスの各「レクイエム」、ベートーヴェン「第九」「荘厳ミサ」他多数の作品を歌い高い評価を得ている。現在、シノベムジカアカデミー代表、京都バッハソリスト連所属、京都グヴァントハウス合唱団音楽顧問、日本テレマン協会ソリスト、京都女子大学非常勤講師。

バイオリン

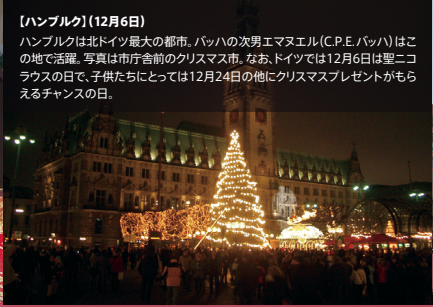
釋 伸司 しゃくしんじ

京都市立芸術大学卒業。元テレマン室内管弦楽団コンサートマスター。現在は、いずみシンフォニエッタ大阪、マイハート弦楽四重奏団メンバー。京都フィルハーモニー室内合奏団客演コンサートマスター。室内アンサンブル・アッサンブラージュを主宰し、ホール主催公演、学校公演レコーディングなど幅広く活躍している。神戸女学院非常勤講師、岡山フィル首席奏者。アンサンブル・ムジカ・アニマコンサートマスター。アマ・ビレフィハーモニー管弦楽団客演コンサートマスター。



【降誕物語】

「クリスマス・オラトリオ」は、ルカ伝第二章とマタイ伝第二章から取り出されたイエスの生涯をめぐる降誕記事が、全六部に配分されている。



【ハンブルク】(12月6日)

ハンブルクは北ドイツ最大の都市。バッハの次男エマエル(C.P.E.バッハ)はこの地で活躍。写真は市庁舎前のクリスマス市。なお、ドイツでは12月6日は聖ニコラウスの日で、子供たちにとっては12月24日の他にクリスマスプレゼントがもらえるチャンスの日。



【ドレスデン】(12月24日)

ドレスデンはザクセン選帝侯領の中心地。「クリスマス・オラトリオ」の創作過程では、ザクセン選帝侯とも関連が深かったと言われる。写真はクリスマス・イブの日のドレスデン市。



【ザイフェン】(12月26日)

ザイフェンはドレスデンから南に約50kmに位置するチエコの国境近くにあるエルツ山地の町。写真は、降誕節第2日(12月26日)朝の様子。地元の教会前には礼拝に向かう人の列がある。



【メルン】(1月1日)

メルンはハンブルク東部に位置するティル・オレンシュビーゲル(伝説の奇人)で有名な町。写真は新年の様子。

## バッハ写真館

バッハ(2013年)、ハイドン(2014年)、ベートーヴェン(2015年)、ブラームス(2017年)、ドヴォルザーク(2018年)、ヘンデル(2019年)に続く、パス・大隅氏による7回目の写真館です。今回は、バッハの生涯とドイツのクリスマス風景を紹介します。写真館でどうぞおくらげ下さい。(音楽会運営部)



【アイゼナハのバッハ】

アイゼナハ。バッハハウス前のバッハ像。ヨハン・ゼバスティアン・バッハは、1685年にドイツ中部のアイゼナハで生まれた。



【リューネブルク・市庁舎】

15歳の時、北ドイツ・リューネブルクの聖ミカエル教会の合唱団員として採用されたバッハは、17歳までこの地で過ごした。写真は市庁舎前のクリスマス市。



【リューベック・ホルステン門】

20歳の時、フクステファデのオルガン演奏を聴くため、北ドイツのリューベックへ向かった。写真は同市の象徴とも言われるホルステン門で15世紀の建造物。



【アルンシュタットのバッハ】

18歳の時、アイゼナハから東に約60kmに位置するアルンシュタットの教会オルガニストに採用され、音楽家としてのキャリアをスタートした。



【ドルンハイムのバッハ】

ミュールハウゼンで定職を得て身を固める決心をしたバッハは、マリア・ハルバラとアルンシュタット近郊の村ドルンハイムで結婚式を挙げた。



【ライプチヒ・ニコライ教会】

バッハゆかりの教会。「ヨハネ受難曲」はここで初演。1989年の東ドイツ平和革命の口火が切られた「東西ドイツ統一の出発点」でもある。



【ライプチヒのバッハ】

38歳の時、バッハはザクセン最大の都市ライプチヒに移住。この地で65歳の生涯を終えた。写真は、トーマス教会前のバッハ像。



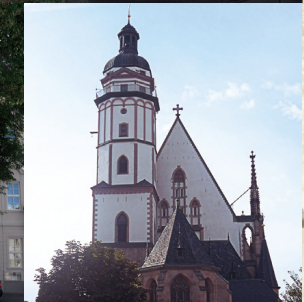
【ミュールハウゼンのバッハ】

22歳の時、帝国自由都市ミュールハウゼンの教会オルガニストに採用され、この地で2年間を過ごした。



【ケーテンのバッハ】

32歳の時、バッハはケーテン侯レオポルトに仕えた。後方の建物が、バッハの再婚相手アンナ・マグダレーナと過ごした家といわれている。



【ライプチヒ・トーマス教会】

バッハゆかりの教会。「マタイ受難曲」はここで初演。1734年に作曲された「クリスマス・オラトリオ」は、トーマス教会の聖歌隊を率いて、トーマスニコライの再教会を往復しつつ、初演を行ったといわれる。